

## 令和7年上半年火災・救急概況（速報）

～令和7年1月1日から令和7年6月30日まで～

## ① 火災件数が増加、過去10年で2番目の件数を記録し、平成29年以来の400件を突破

- ・火災件数は412件で、前年同期と比べ83件増加しています。
- ・建物火災は267件、そのうち住宅火災は172件で、いずれも過去10年で最多となっています。
- ・放火自殺を除く火災による死者は12人で、前年同期と比べ4人減少しています。

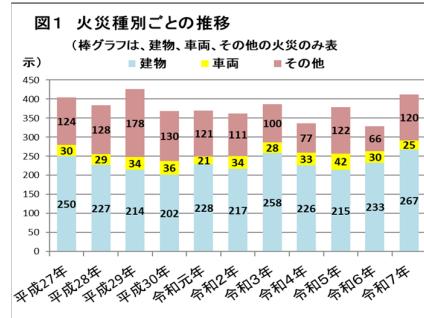
## ② 救急出場件数・搬送人員ともに、5年ぶりの減少、傷病程度別割合は中等症が最多

- ・救急出場件数は120,415件で、前年同期と比べて2,858件（2.3%）減少し、搬送人員も97,288人で、前年同期と比べて2,917人（2.9%）減少しています。
- ・傷病程度別割合では中等症者が47.8%、前年同期に比べ2.1%増加して最多となっています。

## 1 火災の概況（詳細は、別添資料1参照）※過去10年の平均は平成27年から令和6年までとしています。

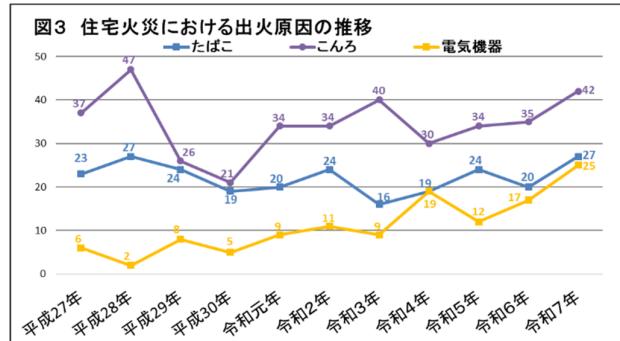
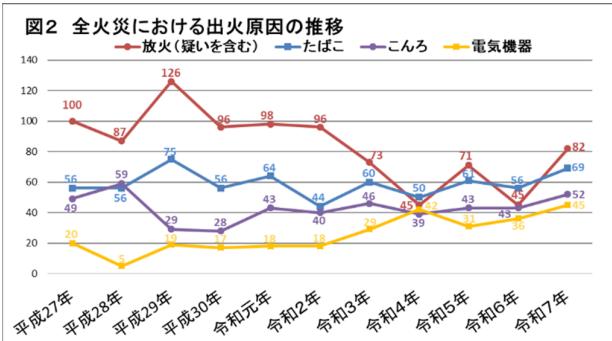
## (1) 火災件数【図1】

- ・火災件数は412件で、前年同期と比べ83件増加しており、過去10年で2番目に多い件数となっています。
- ・火災種別ごとの内訳は、「建物火災」が267件（前年同期比34件増）で過去10年で最多となっているほか、「車両火災」が25件（同5件減）、「その他の火災」が120件（同54件増）となっています。
- ・建物火災のうち住宅火災は172件で、過去10年で最多となっています。



## (2) 主な出火原因【図2】【図3】

- ・全火災における出火原因の上位は「放火（疑いを含む）」が82件（19.9%）、「たばこ」が69件（16.7%）、「こんろ」が52件（12.6%）、「電気機器」が45件（10.9%）となっています。
- ・住宅火災における出火原因の上位は「こんろ」が42件（24.4%）と最も多く、次いで「たばこ」が27件（15.7%）、「電気機器」が25件（14.5%）となっています。こんろ及びたばこの件数は高止まっているほか、電気機器は増加傾向となっています。
- ・全火災における出火原因是前年同期と比べ、放火（疑いを含む）は37件、たばこは13件それぞれ増加しています。また電気機器は過去10年で最多となる45件で、その約半数の21件はリチウムイオン電池に起因する火災となっています。



裏面あり

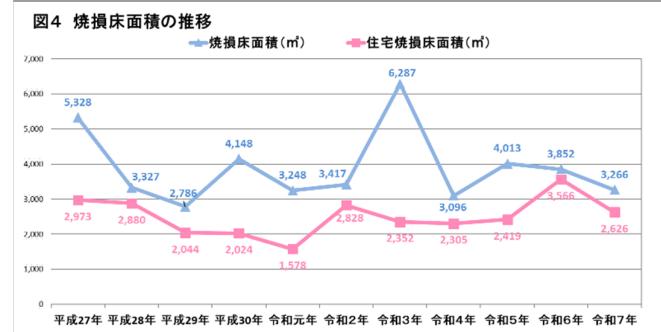
GREEN × EXPO 2027  
YOKOHAMA JAPAN

2027年国際園芸博覧会 2027年3月～9月 横浜・上瀬谷



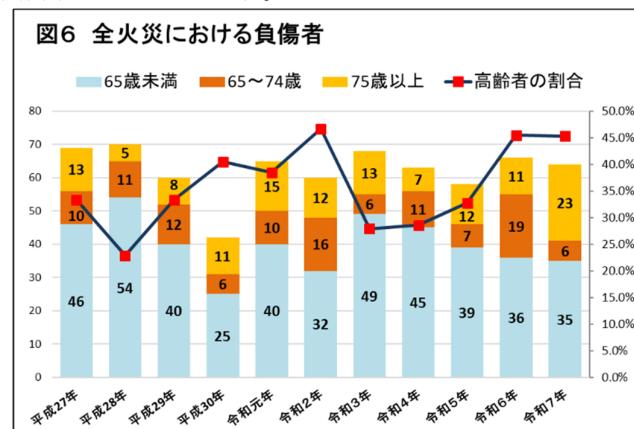
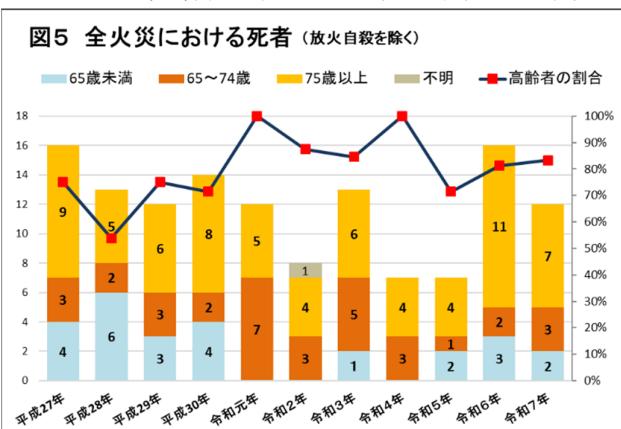
### (3) 焼損床面積【図4】

- ・全火災における焼損床面積の合計は3,266m<sup>2</sup>で、前年同期と比べ586m<sup>2</sup>減少し、過去10年の平均と比べ684m<sup>2</sup>減少しています。
- ・住宅火災における焼損床面積の合計は2,626m<sup>2</sup>で、前年同期と比べ940m<sup>2</sup>減少していますが、過去10年の平均と比べ129m<sup>2</sup>増加しています。



### (4) 火災による死者・負傷者【図5】【図6】

- ア 放火自殺を除く火災による死者は12人となっています。
- ・死者は前年同期と比べ4人減少し、全員が住宅火災で亡くなっています。
  - ・死者の年齢別では、65歳未満が2人、65歳から74歳が3人、75歳以上が7人となっており、高齢者（65歳以上）は合計10人で、全体の83.3%を占めています。
  - ・住宅用火災警報器の設置が確認できなかった火災による死者は9人となっています。
  - ・死者のうち半数を超える7人が就寝中の火災によって亡くなっています。
- イ 火災による負傷者は64人となっています。
- ・負傷者は前年同期と比べ2人減少し、そのうち51人（79.7%）が住宅火災で発生しています。
  - ・全ての負傷者のうち29人（45.3%）が65歳以上の高齢者となっています。



## ～火災を起こさないために！今すぐできる防火対策～

### 対策① 家のまわりに燃えやすいものを置かない

ごみ集積場所のごみや、家の周囲の燃えやすい物などに放火される火災が多発しています。家のまわりには段ボールなどの燃えやすいものを放置せず、ごみは各地域で決められた日・場所に出しましょう。



### 対策② こんろを使用するときは、その場を離れず、服装にも注意

食用油を加熱したまま放置すると、過熱して発火する危険があります。こんろを使用中にその場離れる際は、必ず火を消しましょう。また、こんろの火が衣類に燃え移る着衣着火にも注意が必要です。調理時にはゆったりした服や袖口の広がった服は避けましょう。



### 対策③ モバイルバッテリーなどの充電は目の届く場所で

モバイルバッテリーは、落下の衝撃や過度な圧力、高温環境、間違った使い方等により発火や発煙の恐れがあります。万が一に備えて、充電中は目の届く範囲に置いておきましょう。また、モバイルバッテリーの周りに燃えやすいものは置かないようにしましょう。



より具体的な防火対策を学びたい方は、よこはま防災e-パークをチェック！



**GREEN × EXPO 2027**  
YOKOHAMA JAPAN

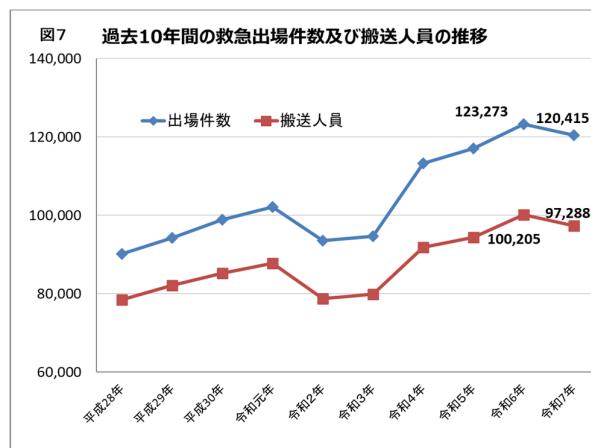
2027年国際園芸博覧会 2027年3月～9月 横浜・上瀬谷



## 2 救急の概況（詳細は、別添資料2参照）

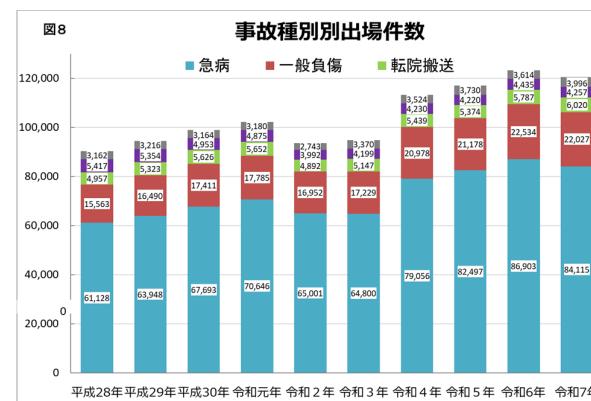
### (1) 救急出場件数及び搬送人員【図7】

- ・救急出場件数は120,415件（前年同期比2,858件減）、搬送人員は97,288人（同2,917人減）となっています。
- ・1日あたりの平均出場件数は665件で、前年同期と比べ12件減少となっています。
- ・2分10秒に1回救急車が出場していることになります（前年同期は2分8秒に1回）。



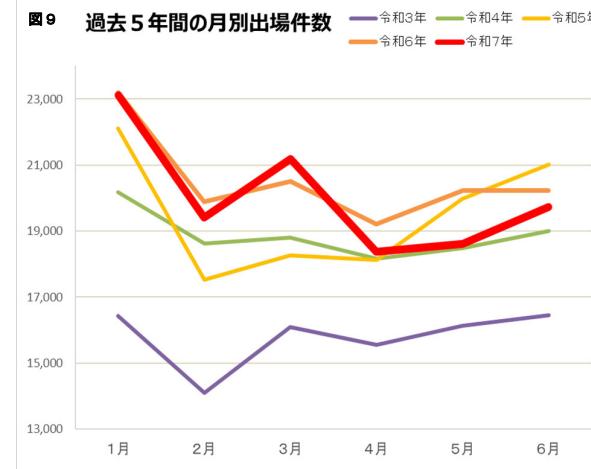
### (2) 事故種別別出場件数【図8】

- ・事故種別ごとの出場件数は「急病」84,115件（前年同期比2,778件減）、「一般負傷※」22,027件（同507件減）、「転院搬送」6,020件（同233件増）、「交通事故」4,257件（同178件減）となっています。
- ・出場件数全体のうち、「急病」が約70%、「一般負傷」が約18%を占めています。  
※ 「一般負傷」とは、「労働災害や運動競技等に分類されない不慮の事故」をいい、住宅内での転倒・転落、やけど等が該当します。



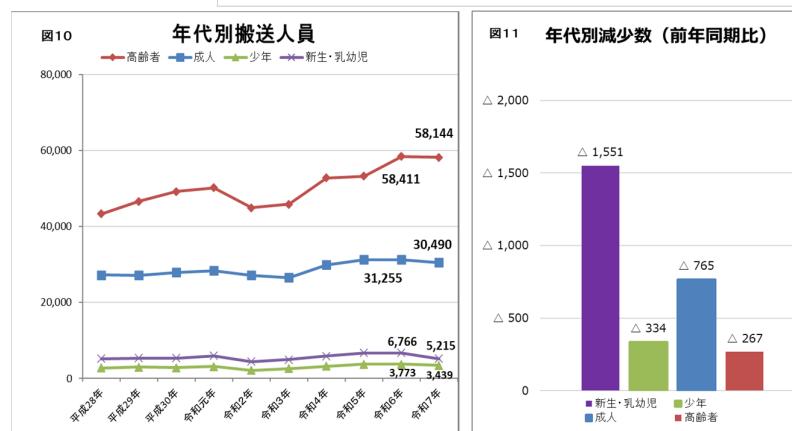
### (3) 月別出場件数【図9】

- ・1月の出場件数は23,121件（前年同月比71件減）で、上半期最多となっています。
- ・前年同期と比べて3月のみ出場件数が増加しましたが、他の月は全て減少しています。



### (4) 行政区別出場件数

- ・出場件数が最も多かったのは港北区（9,698件）、次いで鶴見区（8,834件）、戸塚区（8,791件）です。
- ・前年同期と比べ西、南及び青葉区では出場件数が増加していますが、その他の行政区では減少しています。



裏面あり



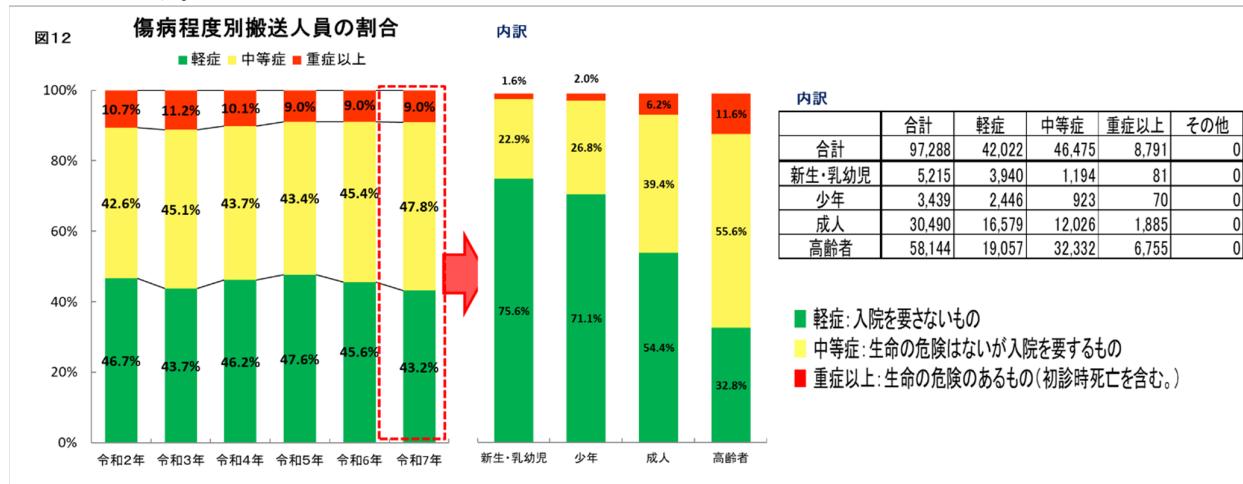
GREEN × EXPO 2027  
YOKOHAMA JAPAN

2027年国際園芸博覧会 2027年3月～9月 横浜・上瀬谷



## (6) 傷病程度別搬送人員（医療機関初診時）【図 12】

- 「軽症」は42,022人（前年同期比3,654人減）、「中等症」は46,475人（同936人増）、「重症以上」は8,791人（同197人減）となっています。
- 「新生・乳幼児」及び「少年」では7割以上が軽症であるのに対し、「高齢者」では6割以上が中等症以上となっています。



※ グラフ等の割合は小数第2位を四捨五入しているため、表中の合計が 100%にならない場合があります。

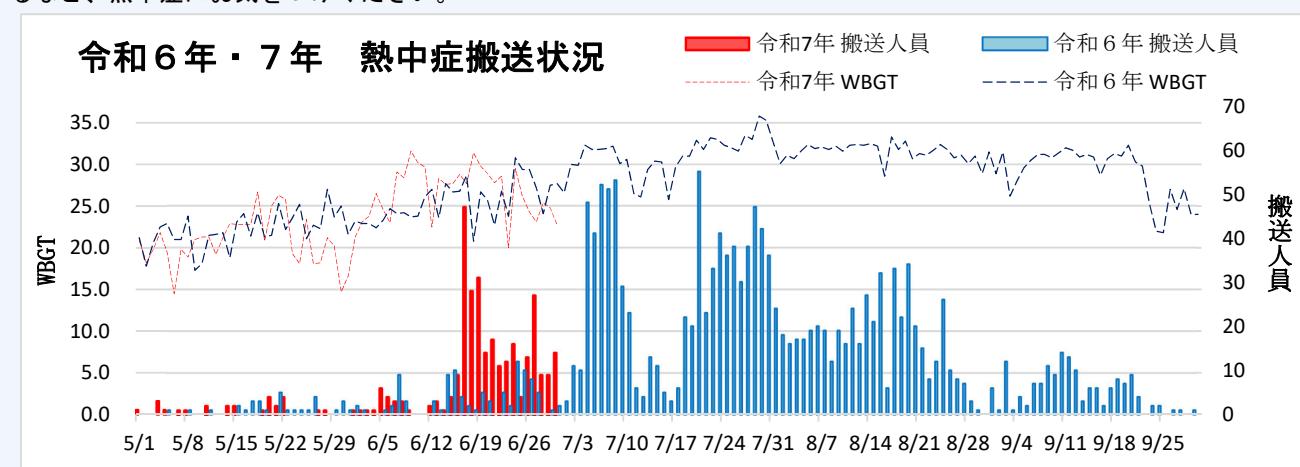
### 熱中症に御注意ください！

今年は、本格的な夏を前に熱中症による救急搬送が急増しており、6月17日には、最高気温34.3度、暑さ指数(WBGT) 81.6を記録し、47人が救急搬送されています。

今後も厳しい暑さが続く可能性があり、熱中症による搬送件数が更に増加することが懸念されます。こまめに水分・塩分を補給する、適切にエアコンを使用するなど、熱中症にお気をつけください。

### 熱中症予防のポイント

- ・水分、塩分補給
- ・涼しい服装
- ・冷房による室内の温度の管理
- ・直射日光を避け体を冷やす
- ・暑さ指数(WBGT)の確認



### おぼえておきたい3つのステップ！！

- ステップ1 元気なうちにしっかり備える
- ステップ2 困ったときはまず相談
- ステップ3 こんな時こそ救急車

急な病気や大きなケガを予防するための取組や救急車の正しい利用方法の理解促進に向け、「あんしん急救」の取組を進めています。



### お問合せ先

(火災に関すること)	消防局予防課長	川島 正裕	Tel 045-334-6601
(救急に関すること)	消防局救急企画課長	谷津 直樹	Tel 045-334-6771



**GREEN × EXPO 2027**  
YOKOHAMA JAPAN

2027年国際園芸博覧会 2027年3月～9月 横浜・上瀬谷



# 火災概況(速報)

## 1 火災種別・損害状況

		年別		前年比 (A) - (B)	過去10年間の平均 (平成27年～令和6年) (C)	増△減 (A) - (C)	単位：件
火災種別	区分	令和7年 (A)	令和6年 (B)				
	全火災	412	329	83	376	36	
	建物火災	267	233	34	227	40	
	住宅火災	172	158	14	149	23	
	林野火災	-	-	-	-	-	
	車両火災	25	30	△5	32	△7	
	船舶火災	-	-	-	1	△1	
	航空機火災	-	-	-	-	-	
	その他火災	120	66	54	116	4	
損害状況	焼損床面積(m <sup>2</sup> )	3,266	3,852	△586	3,950	△684	
	死者(人)	14	17	△3	13	1	
	放火自殺者	2	1	1	1	1	
	負傷者(人)	64	66	△2	62	2	
	焼損床面積(m <sup>2</sup> )	2,626	3,566	△940	2,497	129	
	住宅火災	12	17	△5	12	-	
	死者(人)	-	1	△1	1	△1	
	放火自殺者	-	-	-	-	-	
	負傷者(人)	51	50	1	47	4	

備考 住宅火災の件数は建物火災の内数、住宅火災の損害状況は全火災の損害状況の内数。また、放火自殺者数は死者数の内数。  
過去10年間の平均の数値は小数点以下を四捨五入してあるので、合計と一致しない場合があります。

## 2 主な出火原因

		年別		前年比 (A) - (B)	過去10年間の平均 (平成27年～令和6年) (C)	増△減 (A) - (C)	単位：件
火災	区分	令和7年 (A)	令和6年 (B)				
	放火(疑いを含む)	82	-	37	-	△2	-
	たばこ	69	-	13	-	11	
	こんろ	52 (6)	43 (3)	9 (3)	42 (4)	10 (2)	
	電気機器	45 (45)	36 (36)	9 (9)	24 (24)	21 (21)	
	配線器具	21 (21)	14 (14)	7 (7)	15 (15)	6 (6)	
	上記以外の出火原因	143 (43)	135 (42)	8 (1)	154 (49)	△11 (△6)	
	計	412 (115)	329 (95)	83 (20)	376 (92)	36 (23)	
	計	42 (5)	35 (2)	7 (3)	34 (4)	8 (1)	
住宅火災	たばこ	27	-	7	-	5	-
	電気機器	25 (25)	17 (17)	8 (8)	10 (10)	15 (15)	
	配線器具	13 (13)	11 (11)	2 (2)	10 (10)	3 (3)	
	ストーブ	12 (10)	14 (9)	△2 (1)	15 (11)	△3 (△1)	
	上記以外の出火原因	53 (15)	61 (15)	△8 -	59 (13)	△6 (2)	
	計	172 (68)	158 (54)	14 (14)	149 (48)	23 (20)	

備考 ( )内は電気に起因する火災で各出火原因の内数  
過去10年間の平均の数値は小数点以下を四捨五入してあるので、合計と一致しない場合があります。

## 3 行政区別火災発生状況

		年別		前年比 (A) - (B)	過去10年間の平均 (平成27年～令和6年) (C)	増△減 (A) - (C)	単位：件
行政区	区分	令和7年 (A)	令和6年 (B)				
	鶴見区	34	21	13	31	3	
	神奈川区	22	23	△1	25	△3	
	西区	11	16	△5	17	△6	
	中区	48	48	-	36	12	
	南区	28	19	9	22	6	
	港南区	17	12	5	19	△2	
	保土ヶ谷区	19	13	6	17	2	
	旭区	22	15	7	24	△2	
	磯子区	20	9	11	13	7	
	金沢区	22	24	△2	19	3	
	港北区	42	34	8	35	7	
	緑区	22	9	13	16	6	
	青葉区	24	15	9	21	3	
	都筑区	25	8	17	17	8	
	戸塚区	25	26	△1	28	△3	
	栄区	6	12	△6	9	△3	
	泉区	16	17	△1	16	-	
	瀬谷区	9	8	1	15	△6	
	合計	412	329	83	376	36	

備考 過去10年間の平均の数値は小数点以下を四捨五入してあるので、合計と一致しない場合があります。

## 令和7年上半期の救急概況〈速報〉

## 1 救急出場件数

区分	令和7年	令和6年	増△減	増減率
救急出場件数	120,415	123,273	△2,858	△2.3%
1日あたりの件数	665	677	△12	
出場率(何分何秒に1回)	2分10秒に1回	2分8秒に1回		

## 2 事故種別別救急出場件数

区分	令和7年		令和6年		前年比較	
	出場件数	構成比	出場件数	構成比	増△減	増減率
合計	120,415	100.0%	123,273	100.0%	△2,858	△2.3%
事故種別	急性病	84,115	69.9%	86,903	70.5%	△2,788
	一般負傷	22,027	18.3%	22,534	18.3%	△507
	転院搬送	6,020	5.0%	5,787	4.7%	233
	交通事故	4,257	3.5%	4,435	3.6%	△178
	その他	3,996	3.3%	3,614	2.9%	382

## 3 傷病程度別搬送人員

区分	令和7年		令和6年		前年比較	
	搬送人員	構成比	搬送人員	構成比	増△減	増減率
合計	97,288	100.0%	100,205	100.0%	△2,917	△2.9%
程度	軽症	42,022	43.2%	45,676	45.6%	△3,654
	中等症	46,475	47.8%	45,539	45.4%	936
	重症以上	8,791	9.0%	8,988	9.0%	△197
	その他	0	0.0%	2	0.0%	△2

## 4 年代別搬送人員

区分	令和7年		令和6年		前年比較	
	搬送人員	構成比	搬送人員	構成比	増△減	増減率
合計	97,288	100.0%	100,205	100.0%	△2,917	△2.9%
年代	高齢者	58,144	59.8%	58,411	58.3%	△267
	成人	30,490	31.3%	31,255	31.2%	△765
	少年	3,439	3.5%	3,773	3.8%	△334
	新生・乳幼児	5,215	5.4%	6,766	6.8%	△1,551

## 5 発生行政区別救急出場件数

区分	令和7年		令和6年		前年比較	
	出場件数	構成比	出場件数	構成比	増△減	増減率
合計	120,415	100.0%	123,273	100.0%	△2,858	△2.3%
行政区	鶴見	8,834	7.3%	8,957	7.3%	△123
	神奈川	7,577	6.3%	7,678	6.2%	△101
	西	5,270	4.4%	5,114	4.1%	156
	中	8,611	7.2%	8,811	7.1%	△200
	南	7,557	6.3%	7,381	6.0%	176
	港南	7,372	6.1%	7,492	6.1%	△120
	保土ヶ谷	6,154	5.1%	6,619	5.4%	△465
	旭	7,775	6.5%	8,278	6.7%	△503
	磯子	5,373	4.5%	5,648	4.6%	△275
	金沢	6,396	5.3%	6,572	5.3%	△176
	港北	9,698	8.1%	9,798	7.9%	△100
	緑	5,421	4.5%	5,753	4.7%	△332
	青葉	7,548	6.3%	7,530	6.1%	18
	都筑	5,205	4.3%	5,296	4.3%	△91
	戸塚	8,791	7.3%	9,073	7.4%	△282
	栄	3,889	3.2%	3,929	3.2%	△40
	泉	4,968	4.1%	5,044	4.1%	△76
	瀬谷	3,956	3.3%	4,272	3.5%	△316
	市外	20	0.0%	28	0.0%	△8

## 6 月別救急出場件数

区分	令和7年		令和6年		前年比較	
	出場件数	構成比	出場件数	構成比	増△減	増減率
合計	120,415	100.0%	123,273	100.0%	△2,858	△2.3%
1月	23,121	19.2%	23,192	18.8%	△71	△0.3%
2月	19,400	16.1%	19,896	16.1%	△496	△2.5%
3月	21,176	17.6%	20,510	16.6%	666	3.2%
4月	18,379	15.3%	19,219	15.6%	△840	△4.4%
5月	18,613	15.5%	20,230	16.4%	△1,617	△8.0%
6月	19,726	16.4%	20,226	16.4%	△500	△2.5%

※全ての表の構成比は小数第2位を四捨五入しているため合計が100%にならない場合があります。